

学校法人城西大学理事長 水田宗子の人生ノート

⑦

「偽らず、欺かず、諂わす」

第1章 私の原点、父、水田三喜男

水田は父・水田三喜男の国際政治観を語る。

「父は、『日本の戦後復興は、国際社会への復帰と人材育成の基礎作の』と言っていました。大蔵大臣としても、政調会長としても、外国との交渉が多だけに、国際社会で尊敬される日本と、日本人であることの重要性を身に染みて考えていたと思います」

1ドル308円の決断後はもちろん、インフレ抑制や経済立て直し、緊縮予算編成、

世界の信頼集めた国際派

局をどう乗り切るか。大蔵を死守する絶対条件を見事に大臣たる三喜男の責務であらうと見做したのである。

その年、IMF(国際通貨基金)総会を目指しウィーンに飛んだ三喜男は、さつそくアメリカのバンク・オブ・アメリカ、ファースト・ナショナル・シティ、チェース・マンハッタンの3行、さらには

41年、佐藤内閣第1次改造で金融引き締め策のため、また出番が回ってくる。「自分が引き締め策で国際収支を良くすると、その後で大盤振舞いしていい子になれるのが田中君であり、福田君だ」と大臣退任の際にあいさつして

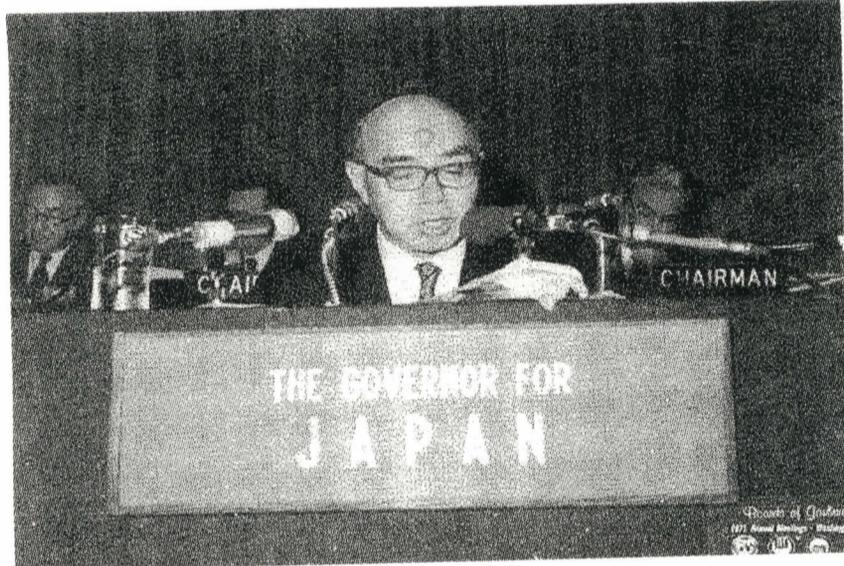
伝へる。1961(昭和36)年、第2次池田内閣のもとで、所得配分した。そして、この債務の返済に万全を期すためIMF増資計画が推進されることになった。しかし、これは輸入増大と輸出減退で外貨減少という危機を招く。この難

その手腕と業績を知る新聞が「平成の水田急募」と報じた。日本経済の礎をつくった「経済の水田」は国民の心に深く残っている。

総選挙を視察した。そして56(昭和31)年、鳩山政権下で難航していた日比賠償交渉を全権委員として推進した。58(昭和33)年には東南アジア視察派遣団長として、インドネシアのネール首相、インドネシアのスカルノ大統領、ビルマはウ・ヌー首相、ベトナムはゴ・ジン・ジエム大統領など各国首脳と会い、「国際派MIKIO MIZUTA」は日本の顔となっていく。

「千葉県選挙民の方々が地元のための政策より、日本の元へ立ち直りに奔走する父を支え、安心して国政に努めることを可能にしてくれたことです」。水田はあらためて感謝している。

(特別編集委員・斎藤柳光)



IMF(国際通貨基金)総会で演説する水田三喜男大蔵大臣